

## 第2回小諸市廃棄物減量・再資源化等推進市民会議議事録

【日時】令和3年5月26日（水）18時00分～19時15分

【場所】小諸市役所 第2会議室

出席：細谷委員、木内委員、原委員、村田委員、宇野委員、依田委員、武者委員、佐藤委員、井出委員、下崎委員、清水委員、事務局

欠席：塩川委員

### 1 開 会

### 2 あいさつ

会長：前回の第1回会議及び委嘱式について、3月26日付の小諸新聞でも大きく報じられた。個人的にも、今年度は区の役員として、集積所のごみ入れボックスを新しい物、これまでより大きな物に交換したが、それでもボックスがいっぱいになるほどたくさんのごみが家庭から出される様子を見て、ごみ減量や再資源化について対策をしていかなければならないと改めて思った次第である。

市民生活部長：4月より市民生活部長を拝命した。4月20日の報道によると、令和元年度実績で長野県はごみの排出量の少なさで6年連続日本一を達成しており、長野県は1人1日あたりのごみ排出量は816グラムで、全国平均の918グラムよりも102グラム少ない状況。小諸市は814グラムということで、県全体よりは若干少ないものの、長野県が初めて日本一となった平成26年度の状況を見ると、長野県全体は838グラム、小諸市は783グラムとなっており、県全体ではごみの排出量が減少傾向にある中、逆に小諸市は増加傾向にある（広報こもろ6月号28ページに記事掲載）。この後、小諸市のごみ処理状況について、報告事項にて詳しく説明するが、令和2年度実績で燃やすごみの排出量は若干減少となっている。内訳を見ると、コロナ禍による経済状況の影響と思われるが、事業系ごみが減少し、家庭系ごみの排出量が増加している状況である。まだまだコロナ禍の収束が見えない中で、ごみの排出量の削減は処理経費の削減だけでなく、地球温暖化防止に向けた重要な施策である。委員の皆様には、小諸市のごみ処理状況を確認していただき、今後のごみ処理施策について、ご意見ご提言をいただきたい。

### 3 報告事項

(1) 前回（第1回）会議の議事録

⇒配布した議事録について各自確認し、修正があれば事務局に申し出るということでした承。

(2)小諸市のごみ処理状況（令和2年度実績）

⇒資料1「小諸市のごみ処理状況（令和2年度実績）」をもとに、事務局より説明を行った。

※この時点では特に質疑応答なし。（3）一般廃棄物処理事業実態調査（令和元年度実績）についての報告後に、活発な議論が行われた。

(3)一般廃棄物処理事業実態調査（令和元年度実績）

⇒資料2「一般廃棄物処理事業実態調査（令和元年度実績）」をもとに、事務局より説明を行った。第1回会議で配布した資料「小諸市ごみ処理基本計画」との比較をしつつ説明。その後、補足説明を行った。内容は、資料5ページの1人1日当たりの集団回収量（19市比較）について、数値が0グラムとなっている市は、把握できていない（資源回収について報奨金を交付している自治体は数値を把握できるが、交付していない自治体は把握できていない。小諸市は報奨金を交付しているため、数値を把握できている。）ということであり、単純に比較できるものではないというもの。なお、上田市については拠点回収を行っている。また、資料7ページの市民1人あたりのごみ処理経費（19市比較）について、単純に経費のみの比較であることを説明。ごみ・資源の収集について、小諸市は週5日と収集回数が多いが、他市は週4回と回数が少ないなど、まったく同じ条件下でなく、単純に考えて収集回数が多い方が経費はかかることを補足した。

※質疑応答

委員：平成26年度の実績と比較して、説明のあった項目すべてにおいて、基本的には数値が悪くなっているという認識で良いか？

事務局：単純に数値だけで判断すれば、そういうことになる。国や県全体ではごみの排出量が減少傾向にある中、逆に小諸市は増加傾向にあるということ。近日発行される広報こもろ6月号にも記事を掲載している。

委員：広報こもろ6月号は具体的にどんな内容・イメージか？

事務局：（色やイメージがわかるよう、実際の広報記事を委員に示しながら説明）内容は、長野県がごみの排出量の少なさで6年連続日本一を達成したということ、また、県全体ではごみの排出量が減少傾向にある中、逆に小諸市は増加傾向にあるため、一人ひとりができることに取り組んでいくよう依頼するもの。

委員：資料2「一般廃棄物処理事業実態調査（令和元年度実績）」の3ページ「令和元年度家庭系ごみの1人1日当たりの排出量（19市比較）」において、家庭ご

みの1人1日当たりの排出量が500グラム/人・日より少ない市は、どういう理由によるものか？前回の第1回会議資料「小諸市ごみ処理基本計画」の同項目（一般廃棄物処理事業実態調査（平成26年度実績）の家庭ごみの1人1日当たりの排出量）と比較した場合に、東御市とその他3市の量がここまで減ったのはなぜか？何か情報は入っているか？

事務局：東御市は、事業系ごみの1人1日当たりの排出量も、令和元年度実績で67グラム/人・日と少ない（資料2「一般廃棄物処理事業実態調査（令和元年度実績）」の4ページ「令和元年度事業系ごみの1人1日当たりの排出量（19市比較）」参照）。東御市のごみ排出量が少ない理由について、特別な情報は持っていない。

委員：近隣の市でできることは、小諸市でもできるはずである。こういった疑問について、あらためて委員全員で調べていくことができれば良いと思う。東御市は、ごみ減量アドバイザーを毎年多数養成し、経験者を合わせると、かなり人数が多い。

委員：広報こもろ、テレビを観る世代に対し、一方で、情報を出していても見ない、届かない世代があるように思う。ごみ減量アドバイザーとしても活動する中で感じるが、近い人間であってもごみについて関心がなかったり、分別が煩わしいと感じていたり、資源物まで捨ててしまう。（資料1「小諸市のごみ処理状況（令和2年度実績）」に対して）個人的な考えだが、生ごみの排出量が減ったのは、コロナ禍でテイクアウトを利用する家庭が多いため、そして、テイクアウト用の容器がごみとして出されることで、家庭系ごみの排出量が増えたのではないか。また、段ボールの排出量が増えているのも、コロナ禍により、家にこもって通販を利用する人が多かったためではないかと予想する。昔に比べ、家庭で料理をしなくなったり、各家庭におけるごみの出し方も変わってきていると感じる。打てば響く世代が減っているようにも思うので、若い世代に限定するわけではないが、様々な世代に伝わるような方法で情報を発信する必要がある。

委員：分析は大事である。こういうことを委員で話していくこと、課題を見つけていくことが大事。

委員：近日発行されるという広報6月号の記事の印象として、さわやかな青色で、危機感に乏しいとも感じる。小諸市のごみ処理状況・数値があまり良くないこと、経費が多くかかっている状況を、もっと（深刻に受け止めてもらえるよう）訴えていくようにしてはどうか？

委員：小諸市は、東京都はもちろん、周りの自治体と比較して、しっかりと分別

ができています。分別することで、当然、収集する品目が増えるので、ごみ収集経費もその分多くかかる。では、なぜ分別するかというと、きちんと資源を有効活用するため。小諸市のリサイクル率は 26.6%と高い（資料 2 「一般廃棄物処理事業実態調査（令和元年度実績）」の 6 ページ「令和元年度リサイクル率（19 市比較）」参照）。他の自治体と話をして、生ごみの分別収集など、とても市民の理解が得られず、実施できないと聴く。では、何でもかんでも分別して、経費を多く費やすことが適当なのか？そこは市として、市民のお金を使って、どこまで経費をかけるか決定することになる。ごみを減らす、ごみ処理経費を下げる、それぞれピンポイントで減らせるように有効な議論をし、手立てについて考えていければ良い。

委員：ごみ減量アドバイザーを務めていた時代の話で、生ごみは重量で計測されるが、実際には生ごみの 70%は水分であることから、家庭にディスポーザーを導入するための検討を行った。当時、下水道課ともかなり議論した。水と一緒に下水道に流してしまうので、非常に楽である。我が家では、かなり前に設置して実際に使用しているため、生ごみは出ていない。下水道処理の観点から、規制により、家庭に導入することができないとすれば、事業所に業務用ディスポーザーを設置するための補助金を交付してはどうかと考える。本日、ディスポーザーに関する資料を準備したので、委員や事務局の皆さんにお配りする。なお、直接投入型とそうでない分離型があるが、家庭用の費用は 12 万円程度。

委員：別の委員の話を受けて、小諸市のごみ処理について、とても誇らしいと思った。自信を持っていいのだと思う。危機感を伝え、お願いしていく、広報していくことも必要だが、褒めて伸ばすという方法をとってみてはどうかと考える。

委員：16 年前と現在を比較して、排出されたごみの質は明らかに良くなっている。昔よりもしっかりと、きれいに分別されている。もしもコロナ禍でなければ、こういう風（ごみの排出量が増加傾向）にはなっていなかったのではないかとも思う。ごみの分別が不適切な場合、回収できない際に違反ステッカーを貼るが、それもかなり少なく、感覚的には 90%以上はしっかりと分別ができていると感じる。（取り組みについて）方向性は間違っていないと思う。

委員：（資料 1 「小諸市のごみ処理状況（令和 2 年度実績）」の 8 ページ「埋立ごみ」の推移が増加傾向にあることに目をつけて）埋立ごみについて、例えば使えるタンスがそのまま処分されてしまうこと、ワンクッション入らないことはもったいないと感じる。使わない人から、使いたい人に譲るなど、有効活用できればなあと思うことがある。

事務局：売ります、譲りますというマッチング、取り組みについて検討ができればと考える。

委員：公共のリサイクルセンターに運び込まれた、まだ使用できる物をきれいに  
して、即売会を行っている自治体もある。ただし、個人情報取り扱いが大切にな  
ってくる。また、実際に処理料をいただいて、処理物として依頼を引き受けた  
側が、まだ使用できるからといって売却（転売）する等、金儲けを行ってはなら  
ない。一番大切なのは、処分依頼者の了解をもらうこと（まだ価値がある場合等、  
今後有効活用する可能性があることについて納得し、署名をしてもらったうえで、  
手放した物を引き受ける）。過去に、食品業界で廃棄カツ横流し事件（まだ食べ  
られるカツ（廃棄商材）について、処分を請け負っていた産業廃棄物処理業者が  
不正転売を行ったという事件）があったが、見方を変えれば、寛大な心で見れば、  
リサイクルになるのかもしれない。いずれにせよ、ルール作りが大切ということ。

委員：今日のように自由に議論できることは、とても良いと思う。本日配布され  
た資料については、また委員各自でよく内容を確認することとしたい。

#### 4 協議事項

(1) 今後の方向性の検討について

⇒事務局からあくまでも今後の予定として一括で説明提案を行った後、それぞれ  
協議を行った。

(第3回)

期日：7月15日（木）

時間：午後1時30分～午後3時30分

内容：ごみ処理基本計画の進捗状況についての報告、  
施設見学（クリーンヒルこもろ）

⇒事務局より、ごみ処理基本計画の進捗状況についての報告は全委員対象とし、  
施設見学については、これまで見学したことがない委員と見学したことがある委  
員のうち希望者を対象とする案を提示したところ、委員より提案あり。

委員：過去にごみ減量アドバイザーを務めた立場から、クリーンヒルこもろにつ  
いては、一般的な施設見学だけでなく、ぜひ、2階の環境学習スペースにある、  
ごみ減量アドバイザーがこれまで作成した掲示物も見てほしい。そして、掲示物  
等を用いて、ごみ減量アドバイザーが社会科見学でクリーンヒルこもろを訪れる  
小学生に対して実際に行っている大変わかりやすい説明を、委員の皆さんにも聴  
いてほしい。つまり、都合がつく委員、なるべく多くの委員で、ごみ処理基本計  
画の進捗状況についての報告と施設見学を合わせて学ぶ場としてはどうか？

【結果】委員の提案に対し、賛同が得られたため、全委員対象にごみ処理基本計  
画の進捗状況についての報告と施設見学を合わせた会議として行うことを決定。

説明者（ごみ減量アドバイザー）について、別途ごみ減量アドバイザー会議にて選定していくこととした。日時については原案のままとし、後日あらためて出欠確認を行う。

（案）施設見学（浅麓環境施設組合）

8月23日（月）～27日（金）のいずれか1日で1時間30分程度  
⇒事務局より説明提案を行い、各委員が予定確認のうえ、日にちを決定しようとしたところ、委員が発言。

委員：ごみ減量アドバイザーとして、以前見学に行ったことがあるが、その際は、タイミングが合わず、実際にごみ収集車によって回収された生ごみが施設の受入ホッパに投入される場面を見ることができなかった。投入後の見学であった。今回は、ぜひ見学したい。

委員：生ごみを受入ホッパに搬入するのは13時と15時である。なるべく生ごみの量が多いタイミングで搬入の場面を見るということであれば、週の前半、第1・第3地区の回収日、13時の回が望ましいと考える。つまり、8月23日（月）の13時ということになる。

【結果】賛同が得られたため、8月23日（月）の13時、実際に生ごみが搬入される場面を含め見学することを決定。事務局より浅麓環境施設組合に相談・依頼を行い、実施していく。

（第4回以降）

期日：9月、11月、1月、3月 第4月曜日

時間： 時 分～（1時間）

内容：事業者説明会

- ・ごみ収集の現状（浅麓工業企業組合）
  - ・ごみ処理の現状（イー・ステージ株式会社）
- ワークショップ 3グループ（各4名＋事務局）
- ・課題等の整理
  - ・今後の方向性の検討
  - ・目標設定の考え方の検討

⇒事務局より説明提案を行い、各委員予定を確認。次のような発言あり。

委員：月曜日は予定が入っているため、他の曜日を希望する。

委員：仕事の都合で水曜日以外ありがたい。すべての水曜日について参加できないというわけではない。時間については、これまで同様に18時開始を希望する。

委員：曜日については、基本的には火曜日ということでしょうか？時間について、

昼間の開催も可能であり、希望するところ。しかし、仕事をしている委員の方からすれば、これまで同様に 18 時から開始が望ましいと思うが、どうか？

【結果】協議の結果、9 月、11 月、1 月、3 月の第 4 火曜日とすることを決定。なお、祝日の関係で 11 月のみ第 4 水曜日とした。9 月 28 日（火）、11 月 24 日（水）、1 月 25 日（火）、3 月 22 日（火）、いずれも 18 時から会議を行う。会議の内容については、現時点での考えとして了承を得た。事業者説明については、発表者となる委員の承諾を得た。

## (2) その他

委員：今後進めていく上で、やはり目標を持ちたいと考える。目標を持って活動していくことが大切である。配布された資料を見た時に、様々な項目において、近隣の東御市の数値が良いと思うので、目標にしてみたいと思うがどうか？東御市はどんな活動をしているのか、事務局側で何か情報を持っていれば、教えてほしい。現状について知りたいので、調べておいてほしい。

事務局：現時点で、東御市について何か特別な情報は持っていない。調査・研究してみる。

## 5 閉 会